名古屋芸大グループ通信

22 January 2013

Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OG
ラヴェルがいたから自由になれた
南谷悠子
NUA-STUDENT
やっぱり 絵って面白い
美術学部洋画1コース　4年
池田裕夏

Lecture【レクチャー】
特別講義や講演会など
デザイン学部
■ 澁谷克彦氏(資生堂宣伝部)の特別講義が開催されました

International exchange
Activity【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
美術学部・デザイン学部
■ 2012年 後期交換留学生作品展が行われました。

News/topics
ニュース&トピックス
大学総合
■ 第23回 生涯学習大学公開講座が開講されました
■ 2012年度『芸大祭』が行われました
■ 旧加藤邸アートプロジェクト2012 <記憶の庭で遊ぶ> が開催されました
音楽学部
■ 第35回定期演奏会が行われました
■ 電子オルガンコース第15回定期演奏会が開催されました
■ ピアノと電子オルガンのコラボレーションコンサート～ピアノコンチェルト～が開催されました
人間発達学部
■ 2012年度 子育ち・子育てワークショップにこにこワークショップが開催されました
美術学部・デザイン学部
■ 就活セミナー『明日を信じて』(講師:久郷眞氏)が開催されました
■ 『Open your eyes～生きる術としてのアート』が開催されました
グループ校ニュース&トピックス
■ 名古屋芸術大学 保育・福祉専門学校
グループ校特集
■ 滝子幼稚園
コラムNUA
芸術教育こそ教養の土台
美術学部教養部会教授　新村洋史

Master Artist
マスターアーティスト
小さくて 大きなもの
デザイン学部　クラフトブロック
メタル&ジュエリーデザインコース
准教授　瀬田哲司

Information
インフォメーション
■ アワード
■ 2012年度 音楽学部演奏会スケジュール(2月～3月)

教員が
自身の専門について
発表する

Feature

「私の研究を語る」

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学グループ
http://www.nua.ac.jp

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科　美術研究科　デザイン研究科　人間発達学研究科
学部：音楽学部　美術学部　デザイン学部　人間発達学部
■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園
■名古屋音楽学校(名古屋芸術大学 栄 サテライト)

Feature

「私の研究を語る」

普段、講義を受けている先生から専門の研究テーマについて話を聞いたことはあるでしょうか？　芸術大学という特性から作品展や演奏会で先生の作品や演奏を目にする機会には恵まれていますが、研究発表というとどうでしょう。思い浮かばないのではないでしょうか。

本学では、教員の研究テーマや研究活動を公開する「私の研究を語る」という特別な研究発表が定期的に開催されています。これまでに14回、各学部の教員がそれぞれの研究テーマについて発表を行っています。今回は、主催者である全学図書委員会にお話を伺い、この特別な研究発表「私の研究を語る」について、ご紹介します。

研究を世に知ってもらい、自分たちも襟を正し質の向上に努める

溝口　和夫
図書館長　デザイン学部教授

－どのような経緯で始まったものですか

そもそも教員同士がそれぞれの専門分野についてそれほど把握しているわけではないので、そのことについて一度話し合いたいというのが、始まりです。教員は、会議、自分の講義と、時間に追われているのが現状です。自分に近い分野以外の先生方が、どんな講義をして、どんな分野に打ち込んできたか、なかなか知る機会がないんです。それで、そういった研究会をやって、ざっくばらんな意見の交換をして、親しくなりたい。そんな趣旨から始まっています。

－先生同士の交流がもともとの趣旨なんですね。

もう一つあります。それは、第三者評価を受けることです。大学というのは教育研究の質の確保のため、自己努力を負っています。自分たちがやっている研究を、自分たち自身が発表し発信していく。研究を世に知ってもらい、自分たちも襟を正し質の向上に努める、というようなことが大学の改革として必要とされているわけなんですよね。そういった考えも背景にはあります。ただし、今のところ告知などあまりできていない状況なので、研究者同士のものになっています。

－先生同士の関係が良くなることで大学の質も上がるということですね。

実際のところは、なかなか見えないところを見たいというのが一番の趣旨なんです。芸大

「私の研究を語る」
これまでの講義

第１回 2009.6.24
東條文治
人間発達学部教養部会　講師

「縞模様に刻まれた地球史、生命史
— アフリカ、ロシアでの調査から理科教育まで —」

第２回 2009.11.25
西村正幸
美術学部　アートクリエイターコース　版画コース　教授

「美術を読む
—「たとえ」に満ちている世界」

第３回 2010.3.3
竹本義明
名古屋芸術大学学長　音楽学部　音楽文化創造学科　教授

「地域
公共ホールのマネージメント」

第４回 2010.5.19
竹内　創
デザイン学部　メディアデザインコース　講師

「引き伸ばされる時間」

第５回 2010.7.21
佐藤勝利
人間発達学部　子ども発達学科　教授

「エンターカウンター・グループの治療的意味
— キャンパスエンターカウンター・グループを通して —」

第６回 2010.11.17
須田真弘
美術学部　洋画２コース　准教授

「自作品の紹介
ロンドン海外研修その後」

第７回 2011.1.19
茶谷　薫
音楽学部教養部会　講師

「形・動き・自然」

第８回 2011.5.19
水内智英
デザイン学部　ライフスタイルブロック　デザインファウンデーション　講師

「Relation in Design
『関係性』からデザインを考える」

第９回 2011.7.20
金田利子
人間発達学部　子ども発達学科　教授

「私の人間発達研究史
—発達に定年なし—」

第１０回 2011.11.16
前田ちま子
美術学部　美術文化コース　教授

「MUSEUM EDUCATION IN AMERICA
ニューヨーク近代美術館とその周辺」

第１１回 2012.2.29
田中範康
音楽学部　音楽文化創造学科　教授

「現代の作曲について」

というといろんな研究者がいらっしゃいますから。そうして、それで親しくなりたいわけですよね、私たちが。自分たちの専門のところでこういうことをやっている人なんだと。そういうことがわかると、学校の運営の面でも一体感が生まれて、いい面が出てくると考えています。これまではそういった機会がなかなかありませんでした。

—研究発表はどんなふうでしょうか。聴く側は、先生が中心であっても、例えば、デザインの先生にとっては、音楽や人間発達の専門分野は全くの門外漢ですよね。興味を持って聴けるものなのでしょうか。

そこは、意外にうまくいっています。いつも聴講される常連の人がいたり、ずいぶん鋭い質問をする先生がいたりしますしね。非常に専門的なことは、近いところを研究している人にしかわからない面もありますけど、それでもそれなりに深まっていくものだと思っております。発表する方も緊張して、準備してやってます。でも、聴いてみるとですね、あったかい雰囲気ですよ。

—これまで先生がお聴きになって印象的だったものは？

全部に出席してるわけではないですけども、そうですね、水内先生の「Relation in Design『関係性』からデザインを考える」、なかなか面白かったですね。田中先生の現代の作曲なんていうのも面白かったです。現代音楽というのは、ちょっととっつきにくいところがあるじゃないですか。それを実際に演奏、音楽を聴きながら、それについて良い説明をしてくれたんで、理解しやすかったんでしょうね。

—学生はどれくらい聴きに来ているのでしょうか

講義自体が、多いときでも60〜70人程度で、学生はその1/3といったところです。学生に、閉ざしているわけではないのですが、学生までは照準に入っていないという感じですね、取り組み自体が。学生を意識してするというより、まだまだ学内の先生方というのが中心になっている。ただ、もう少し広げてオープンにしていっても全然かまわないものです。学外から来られたとしても問題ないないです。我々にしてみたら、絵でも、音楽でも、自分たちの哲学みたいなものを発表できる機会ですから。これを機に、多くの人に関心を持っていただければと思います。

第１２回　Steve McGuire
2011.5.19　デザイン学部教養部会　教授

「Learning Language Cooperatively Through Art-Based Tasks」

第１３回　森田裕之
2012.10.3　人間発達学部教養部会　准教授

「＜人間になること＞と＜人間を超えること＞
―人間の変容について考える―」

『ゴドーを待ちながら』

第１４回　西村和泉
2012.11.21　美術学部教養部会　講師

「サミュエル・ベケット
―＜マイナー＞なノーベル賞作家―」

ベケット草稿

ベケット草稿

1. サミュエル・ベケットとは

サミュエル・ベケット（1906-89）はアイルランド出身の作家で、英語とフランス語を用いて小説・戯曲・詩・映画の創作を行いました。1953年にパリで上演された『ゴドーを待ちながら』が代表作として知られています。いつまで待っても姿を現さない「ゴドー」という謎の人物を描いたこの作品によって、ヨーロッパでは不条理劇の作家とみなされています。1969年にノーベル文学賞を受賞しました。

アラン・バディウ（西村和泉訳）『ベケット』

2. ベケットとの出会い

大学3年生の時にフランスに一年間留学したのですが、たまたま立ち寄ったパリの古本屋で、美しい装丁にひかれて読んでみたのが『ゴドーを待ちながら』の原書でした。「読んだ」というより「読めた」ことがきっかけです。留学しても思うように語学力が伸びず、授業でバルザックやプルーストの小説を読む課題が出ても、数行読むのに精一杯。慣れない外国での生活に疲れて、パリの街をさまよい歩いていた時に出会った『ゴドーを待ちながら』のフランス語はするすると頭の中に入ってきて感動しました。しかも、メインの登場人物はたった二人で、三人以上出てくる戯曲を読むとどうしても混乱してしまう私にはぴったりでした。それから今日に至るまでの20年近く、ベケットにどっぷり浸かる生活になりました。

『ゴドーを待ちながら』の原書

3. ベケットは＜マイナー＞？

マイナーを強調した理由は二つあります。

一つ目は、ベケットがカフカ（チェコ出身のドイツ語作家）と同様に、母語以外の言語で執筆を行った移民作家であるというマイナー性を考慮したためです。ベケットは30代の初めに故郷ダブリンからパリに移り住み、ほぼ全ての作品を英仏二言語で執筆しました。アイルランドの母国語は元々ケルト語なのですが、政治的な理由から大国イギリスの言語である英語で執筆し、さらには文学の歴史的伝統があるフランスに移り住んでフランス語でも執筆したことで、ベケットはメジャーな言語の担い手となり、ノーベル賞の受賞に至ったものと推測されます。とはいえ、彼の著作は「フランス文学史」に含まれているものの、パリの書店では外国人作家のコーナーに置かれていることも多く、その位置づけは曖昧です。ベケットが作品の中で好んで描いたのが「境界」や「溝」のような中間地帯なのですが、アイルランドとフランス、母語と外国語、自己と他者といった、相反する二項の「間」に意識的にとどまることで、特定の国や言語や宗教から切り離されて生きざるをえない人々に寄り添って書き続けた作家なのではないかと考えられます。

そして二つ目は、私個人の切ない経験にあります。これまで「ベケットが好きで…」と周りの人に言うと、「その人は、誰？」で話が終わってしまうことが多く、大学院生だった時の授業の発表でベケット作品をクラスメートに見せた時には、「ちょっと変」と引かれてしまい、夫からもたびたび「頭、大丈夫？」と聞かれていたのですが、今ひとつその意味が分かっていませんでした。5年前に名芸大に奉職させて頂き、異文化入門の授業で張り切って映像を流したところ、「気持ち悪かったです」「夢に出てきてうなされました」という感想が返ってきたことで、「私の研究している作家は、もしかしてマイナー？」と初めて気づいたのが理由として挙げられます。土の中に腰まで埋もれた女性が語る『しあわせな日々』、マシンガントークを繰り広げる「口」が登場する『わたしじゃない』など、ベケット作品には取り立てて劇的なストーリーがあるわけではなく、語られる内容はとりとめのない日常世界なのですが、そのベースとなるコンセプトや舞台設定が「どことなく不自然」というところに特徴があります。しかしながら、舞台を繰り返しじっくり見てゆくと、その不自然な設定が妙にリアリティを帯びてくることに気づかされます。この世界を「スタイリッシュで美しい」と信じこんだ20歳の私は、狭い場所に入るのが大好きなベケットの登場人物さながら、アパートの一室にこもって日の光をほとんど浴びず、デートもせず、作品を読みふけるという生活を10年間送ってしまいました（後悔しています。名芸大生の皆さんには決しておすすめしません）。本学で過ごさせて頂く日々の中で、心身共に健康的になり、自分の研究も少しは客観的に見られるようにな

『わたしじゃない』

『しあわせな日々』

ったのではないかと感謝しています。

4.『ゴドーを待ちながら』の草稿研究

「さあ、もう行こう」「だめだよ」「なぜさ」「ゴドーを待つんだ」「ああそうか」（二人は立ち尽くす）。こんなやりとりが繰り返される『ゴドーを待ちながら』は、木が1本生えているだけの舞台で、ゴドーを待ち続けている二人の浮浪者を描いた戯曲です。一幕が大体40分で、一幕の最後まで観客もゴドーが来るのを待つのですが結局来ず、二幕もほとんど同じ会話が続いて結局ゴドーは来ないので、この演劇が初めてアメリカで上演された際には、客の大半が怒って席を立って帰ってしまったと言われています。しかし、色々と調べてゆく過程で、この一見シンプルで筋のない作品を生み出すために、作者がとてつもない試行錯誤を行っていた事実を知ることになりました。

現在取り組んでいるのが、ベケット作品の草稿研究です。作家の中には出版前の原稿を残さない主義の人も多いのですが、ベケットは直筆のノートや手紙、構想メモ等を全て残しています。『ゴドーを待ちながら』の草稿はフランス国立図書館に保管されているのですが、これまで詳細な解読がなされていませんでした。従来の研究では、ゴドー（Godot）は神（God）のもじりであって、「神の死後も神を待ち続ける二人を描く終末論的喜劇」であるという解釈がみられましたが、『ゴドーを待ちながら』の草稿を読むと、「ゴドー」という固有名は元々書かれておらず、原題もただ単に『待つ』であったことから、二人の浮浪者が待っていたのはゴドーではなく、ストーリーの中心にあるのは彼らの関係性そのものであって、互いに支え合いながら終わりなき日常を生き抜く知恵こそが重要だったのではないかという仮説を立てて論証しました。また、草稿と出版稿の比較だけではなく、ベケットはほとんど全ての作品を英語とフランス語で出しているので、その二つの版の比較も研究の対象となります。一作品の二つの版を比べると、削除や加筆が多々みられ、登場人物の名前や年齢が異なっていたり、登場する順番が入れ替わっていたりします。作者がなぜそのような「書き換え」を行ったのかを調べることで、創作行為と意識との関わり方や翻訳不可能性の問題が解き明かせるのではないかと期待しています。

シルク・ドゥ・ソレイユ

コピの作品

5. 今後の取り組み

カナダのサーカス「シルク・ドゥ・ソレイユ」の研究をはじめ、アフリカ文学やベルギー文学にも取り組みたいと考えています。また、アルゼンチン出身の劇作家兼俳優で漫画家でもあったコピ（1939-87）の作品にも興味があります。フランスでは『冷蔵庫』(Frigo) という戯曲がよく知られています。ベケット研究とサーカスやコピに共通するのは、たとえ母国や母語や固有名といったアイデンティティを支える要素から疎遠な状況におかれていても、何らかの形で生きのびる方法を探る姿がみられる点です。サーカスのテントは、ある日どこかに忽然と現れて跡形もなく消えますが、その内側で繰り広げられる世界は人々の記憶と想像力に強く働きかけるエネルギーを持っています。根無し草の状況は決して儚く否定的なものではなく、たとえ閉じた小世界にこもっていても「想像力の根」を伸ばして外の世界と結びつくことが出来るのではないかと考えています。

このように日のあたらない研究をしている私ですが、今後はもう少し日の光を浴びて体力をつけ、皆さんに迷惑をかけない範囲で、ポジティブにマイナーにこだわり続けたいと思っています。

学生にとっては少々専門的すぎる内容といえるかもしれませんが、日頃、教わっている先生の専門分野の話が聴ける貴重な機会といえそうです。先生が他の先生に対してプレゼンテーションを行うのを実際に見るということも、大いに参考になるのではないでしょうか。お話を伺った溝口先生は「大学の財産は、先生たちの研究と学生たちの作品、演奏活動、成果などです。こういった発表の場が一番楽しく強力に推し進められないことには大学の発展はない」と仰っていました。まだまだ小さな規模でしか行われていない講義ですが、心置きなく研究成果に対して自由闊達な意見交換のできる場を大切に育んでいっていることがわかります。講義の雰囲気に触れてみるだけでも有意義なのではないでしょうか。

Entexit エンタジット

Entexitはentrance（入口）とexit（出口）を合わせた造語です。
大学の入試（入口）や就職・進学など（出口）の情報をお知らせするコーナーです。

2012年度　教員採用試験合格者

２０１２年度の学部別教員採用試験合格者は下表のとおりです。
正規合格者３１名、補欠合格者３名で、合計３４名です。

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	不明	合計
音楽学部			3（補1）		1（補1）	1	5（補2）
人間発達学部	17	6					23
美術学部			1				1
デザイン学部			（補1）				（補1）
大学院音楽研究科			1	1			2
							31（補3）

2013年1月10日現在

＜注＞合格者には過年度卒業生が含まれています。
（補）は補欠合格者で、外数。

Close up!
進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-ism

ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
Pf :南谷悠子
指揮：齊藤一郎
セントラル愛知交響楽団
2011年7月29日
愛知県芸術劇場コンサートホール

Vol.45
NUA-OG
南谷悠子
（なんや　ゆうこ）
ピアニスト

1976年　愛知県生まれ
2003年　音楽学部音楽教育学科卒業
2005年　大学院音楽研究科修了
2006年　渡仏
2007年　パリにてデビューリサイタル
2008年　マドレーヌ・ドウ・ヴァルマレット
ピアノコンクール第2位
パリ・エコール・ノルマル音楽院修了
スコラ・カントルム音楽院修了
2011年　齋藤一郎指揮／
セントラル愛知交響楽国と
ラヴェルのピアノ協奏曲ト長調を共演

2008年、仏から帰国後、結婚と出産を経て、2011年から活動を再開。現在は、企画・構成から携わる@南谷悠子の世界シリーズを開催。好評を博している。

ラヴェルがいたから自由になれた

よく笑う。表情豊かに笑うようすは、心の距離をすっと縮めてくれた。しかし、一児の母親でもある演奏家は、自信あふれる表情とはうらはらな言葉を口にした。「私は、回り道ばっかりなんですよ」

小学生の頃から習い事で始めたピアノだったが、音楽の道へ進もうと思っていなかったという。高校受験になっても、自宅から通いやすいという理由で近くの商業高校を選び、音楽とは縁遠い生活をしていた。ピアノは好きで続けていたが、まだ“好き”以上のものではなかった。ピアノには光るものがあったのだろう。音楽教室や学校で勧められ、先生につくことになった。それが本学、演奏科の山田敏裕教授だった。そしてそれは、大きな出会いとなった。「山田先生に教わって『好きでやってるだけじゃ、上手くならない』ということがわかりました。すごく単純なんですけど（笑）」厳しいレッスンは心に響いた。「私に合っていたんだと思います。火が点いたというか、芸大に行こうと決めました」

それからは一筋に……、と行かないのが人生の面白さ。演奏学科に進まず、音楽教育学科に入学する。「歌もやりたかったんです。それに音楽教育にも興味があったので、音楽教育学科を選んだんです」　声楽は、技術の世界である。歌は、いくら歌心があっても、技術が伴わなければ歌えない。歌はすぐに行き詰まった。「本当に行き当たりばったりで、優等生のコースじゃないんです」

歌をあきらめ、今度こそピアノ一筋……、やはり、そうはいかなかった。「ピアノに関しては一所懸命でしたけど、方向性が決まったのは大学院へ進んでからですね」音楽教育学科を卒業し、それでも自分には何かもの足りなさを感じ、山田教授の下で研鑽を続けた。「その頃は、まだ演奏に壁みたいなものを感じていました。がむしゃらに練習してましたけど、音楽と仲良くなれていなかったんだと思います」大学院を修了し、名古屋市の小学校で音楽の講師として職業に就いた。子どもたちに慕われ、教師の道も悪くないと感じていた。しかし、何かが足りなかった。「私が一番したいことではないんじゃないか、という思いがありましたね」　そして渡仏を決める。

「私がフランスへ行こうと思ったのは、ラヴェルのせいなんです（笑）心から、こんなにも共感できる曲があったんだと感じました。人間性ももちろん、子どものような透き通った音楽に夢中になりました。演奏していて音楽と一体になれる気がしました」名古屋音楽学校が４部屋所有するシテデザール（音楽・絵画・彫刻などの芸術家にパリでの研究活動のために宿泊施設を提供することを目的に設立された財団）を利用することができた。エコール・ノルマル音楽院、スコラ・カントルム音楽院の2つの学校に通った。「ラヴェルが住んだ街。そこのものを食べて、フランス人の先生と話してレッスンを受けて、たぶんそれがすごく大事だったんじゃないかと思います。フランス人ってこういう生活なんだ、言葉を学ぶことでこういう思考なんだと、フランス人のアイデンティティみたいなものを肌で感じて変わりました」　壁は消えた。自分のイメージどおりに弾けないもどかしさを常に持っていたが、パリが変えてくれた。「音楽というのはもっともっと楽しいものなんだ、自由なものなんだって気づかされました」

結婚、出産というブランクを経て、昨年、再びステージに立った。大好きなラヴェル、上手くいかなかったら人前で弾くのは辞めようと密かな覚悟でステージに上った。演奏することを心から楽しんだ。オーディエンスから多くのエネルギーと喜びを受け取った。そしてたどり着いた。「私はこっち側の人間だ。私は離れられない」

デビューリサイタルのポスター。

お世話になったイヴ・アンリ氏と。ニースにて。

やっぱり 絵って面白い

Vol.46
NUA-STUDENT
池田裕夏
（いけだ　ゆか）
美術学部洋画1コース
4年

『自画像』
卒業制作でも自画像を描いています。これからも描き続けたいです。

『海』
地元の海です。海の他にも私が住んでいる地域は魅力的な場所がたくさんあります。今後は地元の風景も描いていく予定です。

－洋画1コースですよね（洋画1コースでは、伝統的な西洋絵画をふまえ自然観察を通して具象表現を追究、2コースでは、現代美術における表現の多様性に対し幅広い視野・価値観を備え自己表現できる人材を育成）。

－やっぱり小さい頃から絵が好きだった？

そうですね。でも高校は普通科の高校へ行っていたんです。勉強しなきゃって思っていまして。ですから高校時代は絵から離れていて、大学も椙山女学園大学の国際コミュニケーション学部表現文化学科というとこへ入って。で、名古屋芸大へは3年生からの編入なんです。

－異色の経歴ですね！　編入って途中で変わったの？

椙山は4年生までいって卒業しています。大学時代、サークルに入っていなかったので代わりに何か好きなことをやりたいなと、近くの絵画教室で習い始めたんです。そうしたら、やっぱり面白くて。油絵はやったことなかったですし、デッサンとかも……、それで、もっと学びたいと思って編入しました。

－家族に驚かれなかった？

驚くってほどではないですけど、ちょっとだけ「えっ！」みたいなのはあったかも。でも、中学や小学生の頃から絵が好きだったことを知っていますので「自分で行くならいいよ」って。学費は奨学金と基本的には自分で……、多少は援助してもらっていますけどね。

－編入してみてどう？　環境が変わって大変じゃない？

すごくみんな優しい！ 先生方も親切なので、やりたいことができるというか、協力していただけるし、すごく良いと思います。友達とは、絵のことを話しますね、やっぱり。友達といっても、絵のことは先輩なので……、何使ってるとか、どういうふうに描くのとか、教えてもらっています。先生には、3年生のとき裸婦を描きたくて、彫塑のクラスにモデルさんが来るので彫塑の先生にお願いして協力していただいたんですよ。彫塑のクラスに混ざって自分だけ絵を描いていました。それができたこととかよかったですよ。

－自分で交渉して！

そうです。まず、自分で聞かなきゃダメかなと思って、彫塑の先生にお願いに行って了承をいただいてから、洋画の先生に確認を取ったのでスムーズにできました。裸婦を、クロッキーじゃなくて、長い時間かけて描くことができたのでよかったです。

－大人だね～（感心）。これからはどんな絵を描いていきたい？

人物です。もともと人が好きだから、その人のいいとことか、特徴とかも掘り下げて描いていきたいと思っています。

池田さんに聞きました。

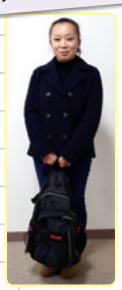
大学は忙しい？

描いて、描いて、描く毎日!!

06:30 起床
08:05 電車に乗る
車内で音楽を聴いたり、本を読んだり、寝たりする
10:20 学校到着
10:30頃 制作開始
制作前に休憩／自分のスペースを片づける
12:00 昼食
13:10 授業（制作）
休憩、たまに図書館に行く
16:30 夕食
18:00 制作
20:20 電車に乗る
車内で音楽を聴いたり、本を読んだりする
22:20 帰宅
入浴や両親との会話
23:00 就寝

●アトリエの自分のスペース
制作途中の卒業制作展の作品です。自画像と祖父母を描いています。たまに片づけますが、片づききれていないです。

ファッションチェック！



学校へ来て絵を描いてると汚れるので、鞄は汚れても気にならないものにしました。

持ち物検査

財布は、高校の入学祝いに買ってもらったもの、大切に使っています。
私、スケッチブックにあんまり描かなくて、落書きなんですよ、見ないでー！

お小遣い・アルバイト

●お小遣い　1万円/月
●アパート等家賃　0万円/月
（実家から通学片道約2.5時間）

美術館へはよく行きます。学生証が使えるのはうれしいですよね。遠くは、お金がかかるので頻繁にはいけないですけど、去年は京都へ青木繁を見に行ってきました。県美術館とか名古屋市美術館は、だいたい展示が変わるごとに行っていますね。そろそろバイトしなきゃ。

Lecture

【レクチャー】
特別講義や講演会など

デザイン学部

澁谷克彦氏（資生堂宣伝部）の特別講義が開催されました

2012年10月18日㈭、本学西キャンパスで、澁谷克彦氏によるデザイン学部の特別講義が開催されました。優れたクリエイティブ力で定評がある資生堂宣伝部で、クリエイティブ・ディレクターとして、その手腕を発揮する澁谷克彦氏。最近では日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）が主催する『第14回亀倉雄策賞』の受賞や、資生堂企業PR誌『花椿』のアートディレクションと誌面リニューアルなどの仕事で、高い評価を受けられています。今回の特別講義では、ワークショップなどを通じ“自分のアイデアをビジュアルにして人に伝える”を澁谷氏より学びました。

ワークショップでは、2つのセッションに受講生たちがチャレンジしました。最初のワークショップは、10名の受講生が描いた『○○な女』の、○○にあたるキーワードを当てるクイズ形式。『できる女』や『クールな女』、『粋な女』といったキーワードを描いた絵を見て、その絵からキーワードを予想します。もちろん、受講生たちはキーワードを知りません。

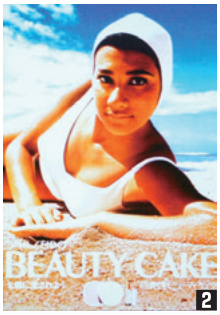
例えば、『できる女』の絵を見て、正解の『できる女』以外にも、“働く女”や“キャリアウーマンな女”といった答えも聞かれました。これについて澁谷氏は、「『できる女』というキーワードに対し、“仕事ができる”とは一言も付け加えていませんが、一般的に『できる女』と聞くと、“仕事ができる”というイメージを連想しやすいようです。そこで、描き手は仕事ができる女のイメージを持ったキャリアウーマンを表現します。メガネやオフィススーツ、ハイヒールなどのアイコンを加えることで、キャリアウーマンをより分かりやすく表現できます。」と解説を加えて説明しました。

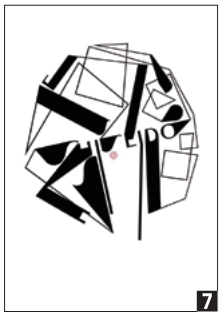
このように、1枚のビジュアルで確実にテーマを伝え、言葉を使わずに相手にメッセージを伝えるビジュアル・コミュニケーションの世界では、相手と自分との共通認識がとても大切です。相手に一瞬で興味を持ってもらったり、理解を早めたりするためには、下記の3つの要素を意識してビジュアルを作成することが重要だと澁谷氏は伝えました。

『早い』→1秒以下で伝わること。
『広い』→世界中の誰とでもコミュニケーションができること。
『深い』→1つのビジュアルの中にたくさんの情報を込められること。

次のワークショップでは、来年の干支「巳」にちなんで、『自由に誰よりも印象に残るヘビを表現する』という課題に取り組みました。受講生たちが描いたリアルなヘビからユニークなヘビまで、いろいろなヘビの絵の中から、印象に残った作品を全員の投票で選出します。

中でも支持が高かかった作品について澁谷氏は「みなさんから支持が高い絵は、何らかの強い印象を与える作品で、多くの人に瞬時に記憶させる力を持っています。逆に、似たようなアイデアの場合は、誰もが思いつくものなので記憶に残りづらいのです。」と解説。そして、「最初のワークショップでは、“テーマを確実に伝える”が目的でしたが、このセッションでは“あなたの1番になりたい”が目的です。1番になることはとても重要で、1番にならないと記憶にも残してもらえませんし、伝えることもできません。伝えることができなければ、そのビジュアルは意味の無いものになってしまいます。」とワークショップを通じての学びについて解説しました。





1 資生堂宣伝部の澁谷克彦氏
2 資生堂の歴史を飾ったポスターの中から、前田美波里さんをモデルに起用した「SHISEIDO BEAUTY CAKE」
3 澁谷氏が資生堂入社直後に表紙を担当した「日本アドバタイザーズ協会」の会員誌「JAA」
4 ワークショップ1の「できる女」を解説する澁谷氏
5 ワークショップ2で人気の高かった作品のひとつ
6 澁谷氏が毎年干支にちなんで制作している年賀状（戌年）
7 澁谷氏の最近の作品（第14回 亀倉雄策 賞受賞作）

ワークショップの中で澁谷氏は「このテーマに取り組む際には、条件が加えられていることにも注目してほしい。今回は干支という条件から『1月1日のデザイン』だということが見えてきます。このような条件が設定されている場合、テーマを整理するには、“5W1H”の法則を活用すると便利です。例えば、私に当てはめた場合は下記のように展開します。」

［When］→お正月
［Where］→こたつの上や会社のデスク
［Who（With）］→今年もよろしくお願いしたい人
［Why］→その年の年賀状No. 1になって目立つ
［What］→その年の干支
［How］→ちょっとひねったアイデア

「私は資生堂に入社してから、毎年“年賀状No. 1”を目指して干支の年賀状を作っています。それは、“こいつできるかも”と思わせて、いい仕事を得るためでした（笑）。いまでも毎年干支の年賀状は継続していますよ。」と長年作り溜めた年賀状を会場で披露されました。

最後に、澁谷氏がデザインの3大要素と考える『発見』、『造形』、『伝達』の実践を心がけてほしいと受講生に求めました。そして、一つのことを貫き通し、同じことを繰り返すことの大切さとともに、自分の直感に忠実で、誰もやっていないことを恐れずに取り組むことを受講生たちに求めこの講義を終えられました。

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など

美術学部　デザイン学部

2012年 後期交換留学生作品展が行われました

2012年度後期の交換留学生として、本学西キャンパス（美術学部・デザイン学部）で学んでいる学生たちの作品を発表する展覧会が、アート＆デザインセンターで開催されました。

後期に交換留学生として来学したのは、フランスのディジョン芸術大学から男女2名の学生、イタリアのヌォーヴァ美術大学から女子学生が1名、ドイツのブレーメン美術大学から男子学生が1名

1 Ms. NINA ESPOUYさんの作品
2 Mr. ROMAIN THIEULOT君の作品
3 Ms. JUI-NING KAOさんの作品
4 Mr. HENNING MARXEN君の作品

で、合わせて3大学4名の学生で、担当教員の指導を受けながら学んでいます。

ディジョン芸術大学からの女子学生Ms. NINA ESPOUY（ニーナ・エスプイ）さんは日本画を学びながら、積極的に制作に励んでいます。男子学生のMr. ROMAIN THIEUROT（ロマ・チュロ）君は、とても明るく謙虚で楽しい学生で、スペースデザインを専攻しています。ヌォーヴァ美術大学から女子学生で台湾出身のMs. JUI-NING KAO（ジュニン・コウ）さんは、母国語ならびに中国語、イタリア語、英語が話せるので、他の留学生の間に立って会話を手助けしています。ブレーメン美術大学からはMr. HENNING MARXEN（ヘニング・マクセン）君は、インダストリアルデザインを学ぶ男子学生です。

作品展は、2012年12月7日㈮から12月12日㈬まで行われました。初日の7日午後5時からは、オープニングレセプションが開催されました。国際交流センターの担当者から留学生4人が紹介され、指導教員による挨拶の後、留学生と本学の学生達や関係者が一堂に会して、交流を暖めながら歓談しました。

News & Topics ニュース&トピックス

大学総合

第23回 生涯学習大学公開講座が開講されました

名古屋芸術大学の第23回生涯学習大学公開講座が、2012年9月から12月まで東西両キャンパスで開講されました。今回も受講生の皆様よりご要望のあった講座などを新たに加え、各学部の専門性を活かした31講座が開設されました。

両キャンパスで開講された講座の中から一部をご紹介しましょう。

【西キャンパス】

●『ビギナーズチョイス 素描を楽しむPart 2』

講師：野口みつ子（名古屋芸術大学美術学部卒業生）

絵画や彫刻の作品制作の第一歩で、基礎的な素描（簡単なスケッチをすること）を学びます。ビギナーとしては、まず形をよく見て、対象をよく観察してから描くことが大切です。

曜日・時間帯：水曜日　18：00－20：00

講座数：全8回

受講料：9,200円（材料費1,200円含む）

●『天然の材料で染める、オリジナルウールストール』

講師：岡 博美（名古屋芸術大学美術学部非常勤講師）

身の回りにある沢山の植物や木の皮などを染料とした染色方法を学び、布を染めます。その後、それぞれ好きな染料を使って、モスリンウールのオリジナルストールを作ります。

曜日・時間帯：水曜日　10：00－12：00

講座数：全9回

受講料：13,000円（材料費3,400円＋展覧会費600円含む）

●『子ども造形と形遊び「和久洋三が提唱する（和久メソッド）創造共育」』

講師：荒木まさかず（名古屋芸術大学デザイン学部非常勤講師）

和久メソッド創造共育では「形」をモチーフに、球、円、四角、三角、点線画を、絵具や粘土段ボールや石膏、木材など様々な素材を使用したオブジェやレリーフなどの作品を毎回制作し、子ども達に遊びを通して主体的に生きる喜びを体験してもらいます。

＜小学生対象講座＞

曜日・時間帯：月曜日　17：30－19：00

講座数：全8回

受講料：20,000円（教材費12,000円含む）

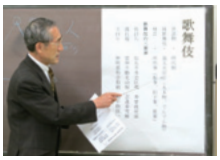
西キャンパス

『ビギナーズチョイス 素描を楽しむPart2』

『天然の材料で染める、オリジナルウールストール』

『子ども造形と形遊び「和久洋三が提唱する（和久メソッド）創造共育」』

東キャンパス



『歌舞伎に見る遊びごころ「虚と実」』

『二胡を楽しむ～入門編～』

『ゆっくり楽しく学ぶイタリア語基礎（入門～初級）』

【東キャンパス】

●『歌舞伎に見る遊びごころ「虚と実」』

講師：渡辺久雄（名古屋芸術大学国際交流センター職員）

日本固有の演劇で、伝統芸能の一つである歌舞伎の世界を分かりやすく解説講義する講座です。歌舞伎の三要素である仇討ち、濡れ場、立回りを代表的な演目をもとに解説し、そこに見る美学・みどころなどを解説していきます。

曜日・時間帯：火曜日　10：30－12：00

講座数：全6回

受講料：6,000円

●『二胡を楽しむ～入門編～』

講師：久保田進子（名古屋芸術大学音楽学部教授）

中国の伝統的な擦弦楽器の一つである二胡は、2本の弦の間に挟んだ弓で弾く楽器です。二胡の柔らかい音色は人の声に最も近いといわれています。初心者を対象として、二胡の音色のようにゆったりと講座が進められます。

曜日・時間帯：土曜日　12：30－14：00

講座数：全6回

受講料：6,000円

●『ゆっくり楽しく学ぶイタリア語基礎（入門～初級）』

桑原恒和（名古屋芸術大学元非常勤講師）

初めてイタリア語を学ばれる方から、すでに少し勉強をし始めている方を対象に、アルファベットからゆっくりたのしく解説します。発音・会話は外国人講師、文法・文化は日本人講師が担当します。

曜日・時間帯：金曜日　10：00－12：00

講座数：全10回

受講料：10,000円

大学総合

2012年度『芸大祭』が行われました

2012年度名古屋芸術大学の大学祭『芸大祭』が、10月25日午後から26日・27日と3日間にわたって東西両キャンパスで開催されました。

東キャンパス（音楽学部・人間発達学部）のテーマは、「Fresh」。「活きのいい学生、新鮮で活気ある芸大祭。今しか出来ない最高に楽しい祭りを作りましょう。学生のパワーの源である若い力を全力で出し切ります」というコンセプトで行われました。模擬店は、例年のようにキャンパス内の建物間の広場に置かれ、ここが一番だと思う模擬店に投票する「King of 模擬店」などが実施されました。メインステージは2号館の1階に設置され、ステージでは様々なトークイベントやライブが行われました。最終日の午後には、外来ゲストの落合健太郎氏のトークライブもあり、大いに盛り上がっていました。

1号館をメイン会場とした人間発達学部では、「わくわく☆ランド」が開催されました。正面ゲートのそばには、巨大な「ふわふわドーム」が設置され、子どもたちが中に入って飛び回って遊びました。2階ロビーではモンテッソーリ手作り教材の展示と販売が、4

階では、自然物を使った遊び・工作や人形劇、ばななパルプで紙を作ろうなどのイベントがありました。そのほか、ボーリングと輪投げ、キックターゲットとぬりえつり、もぐらたたき・キャラクターつりなど、様々なゲームも行われ、母親や家族とともに楽しく遊ぶ子どもたちの姿が見られました。

西キャンパス（美術学部・デザイン学部）の今年のテーマは、「ばってん」でした。「×」、このマークを見てあなたは何を思いますか。悪いイメージを持つ人がいるかもしれません。では、見方を変えてみましょう。あなた×わたし、あなた×芸大祭、何かと何かが交わる形「×」。年に1度の芸大祭だからこそ新しい可能性を見つけてほしい。視点を変え、考えを変え、新しい何かに出会ってほしい。これは、可能性のしるしだ。あなたが何かに気づく祭り「×」。というコンセプトでした。

西キャンパスの名物はなんと言っても模擬店。今年も100店舗に近い模擬店や企画店が出展されました。フードを中心に、ギャラリーやクリエイターズマーケットなどが所狭しと立ち並び、キャンパスは一変、巨大なフリーマーケットのような様相を呈していました。

会場では、スタンプラリーが行われ、全部集めた人には、名芸生がデザインしたオリジナル缶バッジがプレゼントされました。

期間中には、実行委員による様々なステージイベントや地域の子どもたちが楽しめるワークショップ、また学外のアーティストやパフォーマーによるイベントなども行われ、参加者全員で深まり行く秋の祭りを楽しみました。

大学総合

旧加藤邸 アートプロジェクト2012 ＜記憶の庭で遊ぶ＞ が開催されました

北名古屋市にある国登録有形文化財「旧加藤邸住宅」の建物や庭を舞台に、本学の学生や卒業生がアート作品を展示する「旧加藤邸アートプロジェクト2012」が、11月17日㈯から11月25日㈰まで開催されました。

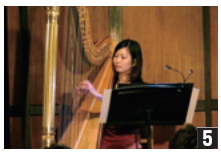
芸術やデザインを探求する学生や卒業生が、旧加藤邸住宅という場から触発された発想やイメージが、「記憶」をキーワードにして、どのような造形となってこの場の記憶を新たにするかを目的とした展覧会です。

オープニングセレモニーが初日の午後2時から開かれ、絵画・彫刻・インスタレーション・映像・など今回出展しているアーティストによるトークが行われました。

今年の公演パフォーマンスは紙芝居で、大学院デザイン研究科2年生の小林亜耶佳氏による「なつかし紙芝居（師勝編）」が18日㈰と24日㈯に行われました。師勝に伝わる昔話の紙芝居で、演題は「勘太の灯」、「たぬきのいぶり出し」の2編でした。また、毎年行われている音楽パフォーマンスは、11月23日㈮の夕闇せまる午後5時から、音楽学部の学生や院生、卒業生有志などによって、薄明かりに楽器が映える厳かな雰囲気のなかで行われました。

プログラムは、ハープソロ（柴田路子）、ソプラノ＆ピアノ（若田 瞳　山本多恵佳）、サックス二重奏（所 克頼　竹内幸枝）、クラリネット＆ピアノ（浜島理恵　碇大知）、マリンバソロ（近藤幹夫）の各氏による演奏でした。庭園に取り囲まれた純和風の建物の中で、周囲の雰囲気にマッチした音楽の調べに、訪れた人たちはしばし時を忘れて聞き入っていました。

その他、開催期間中に東茶道クラブによる呈茶会なども行われ、ご近所の人たちを中心に大勢の来場者がありました。



1 旧加藤邸　正門から母屋庭を見る
2 母屋庭に展示された作品「かたまり」
3 「なつかし紙芝居」のセット
4 みせ、なかのま、ざしきに展示された作品。「うつる」「雫」「万年床」
5 音楽パフォーマンス「ハープソロ」の演奏
6 「クラリネット＆ピアノ」の演奏

音楽学部

第35回定期演奏会が行われました

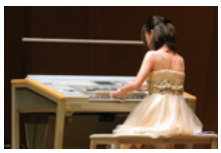
2012年11月15日㈭、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで、本学音楽学部の第35回定期演奏会が開催されました。

本学音楽学部は、指導方針の一つとして、学生は毎日の練習とレッスンを受けるのみでなく、舞台での演奏によって、その成果と教育効果を格段に高めることができると考えております。その意味からも多くの演奏会を開催し、多くの学生が出演できる機会を作っています。

この定期演奏会は、学年を問わずたくさんの学生が参加したオーディションによって選抜された出演者によるもので、独奏・独唱の形態による各個人のすぐれた技術と感性を表現する演奏会となっています。

プログラムは前半に、電子オルガンからピアノまで10名の学生が、休憩を挟んで後半は、まずピアノ作品の発表があり、その後、サクソフォーンからソプラノまで8名の学生、合計18名が独奏・独唱を披露しました。ピアノ伴奏は主に、卒業生や院生が担当しました。

緊張しながらも、日頃の練習の成果を精一杯披露する学生たちに、会場から暖かい拍手が送られていました。



音楽学部

電子オルガンコース 第15回定期演奏会が開催されました

2012年12月4日㈫、名古屋市熱田区の熱田文化小劇場で、名古屋芸術大学音楽学部主催の電子オルガンコース第15回定期演奏会が開催されました。

この演奏会は、本学電子オルガンコースの日頃の教育成果を、一般の皆様に披露する重要な機会として行われています。出演者は学内のオーディションで選ばれた学生たちで、この日の発表に向けて研鑽を積んできました。共演のソプラノ・ティンパニ・シンバルなどは、卒業生が担当しました。

プログラムは、第1部がC.

ビュッシーの「民謡を主題とした『スコットランド風行進曲』」から、A.プリスの「色彩交響曲より第4楽章Green」までの6曲が、いずれも出演者が編曲した構成で演奏されました。第2部は、演奏者が作曲したオリジナル曲が2曲と、演奏者が編曲した2曲が演奏されました。

最後は、恒例となっている電子オルガンコースの学生全員による演奏で、今年は、組曲「胡桃割り人形」ala名芸と題して、学生たち4人ずつが8組に分かれての演奏でした。編曲と指揮は本コースの指導教員である鷹野雅史氏が担当。ステージ奥の巨大なスクリーンに、曲目の紹介と演奏者の名前が映し出され、曲のイメージに扮した衣装を着けた学生たちが、小気味よく演奏する楽しいフィナーレでした。

会場を埋めた視聴者から大きな拍手が送られていました。

音楽学部

ピアノと電子オルガンのコラボレーションコンサート ～ ピアノコンチェルト ～が開催されました

名古屋芸術大学と名古屋音楽学校の提携を記念したピアノと電子オルガンのコラボレーションコンサート、ピアノコンチェルトが、2012年12月8日㈯、名古屋市中区新栄の名古屋音楽学校ホールで開催されました。

このコンサートは、本学音楽学部の主催で名古屋音楽学校の協力のもとに、ピアノ協奏曲の演奏で、電子オルガンがオーケストラの代わりになってピアノとコラボレーションするスタイルで行われました。

プログラムのトップは、ショパンの「ピアノ協奏曲第1番ホ短調op.11 第1楽章」で、ピアノは永田紘子さん（本学ピアノコース4年）、電子オルガン（オーケストラ）は小笠原彩乃さん（電子オルガンコース卒業生）でした。続いて、ラフマニノフの「ピアノ協奏曲 第2番ハ短調op.18 第1楽章」が演奏されました。ピアノは、碇大知さん（ピアノコース3年）で、電子オルガンは、電子オルガンコースの教員、鷹野雅史氏が演奏しました。

休憩を挟んで、最後の演奏は、ラヴェルの「ピアノ協奏曲ト短調第1楽章」で、ピアノを山本多恵佳さん（大学院音楽研究科2年）が演奏し、電子オルガンは、尾関はるかさん（電子オルガンコース卒業生）が担当しました。

1 永田紘子さんと小笠原彩乃さんの協演
2 碇 大知さんと鷹野雅史氏の協演
3 山本多恵佳さんと尾関はるかさんの協演
4 鷹野雅史氏のソロ演奏

予定のプログラム終了後、本学電子オルガンコースの教員、鷹野雅史氏による電子オルガンの独奏が披露されました。鷹野氏は、国内外で活躍するエレクトーンのトッププレイヤーで、得意のワンマン・オーケストラはそのスケールの大きさとライヴ感で定評があります。ホールを埋めた来場者は、しばし時を忘れて鷹野氏の演奏に酔いしれていました。

人間発達学部

2012年度 子育ち･子育てワークショップ にこにこワークショップが開催されました

人間発達学部では地域の皆さまの子育てを支援するため、毎年、前期と後期の二度に分けて「子育ち・子育てワークショップ」を開催しています。

2012年度の後期のワークショップは、昨年10月4日から本年1月16日まで、「にこにこワークショップ」として全20回で開催されました。

このワークショップは、原則として、幼稚園や保育園に上がる前のお子様を対象として、「遊びの場」を提供するもので、積み木や絵本、玉入れなど様々な遊び道具が置かれた遊戯室の中で、母親や友達と自由に遊んでもらうことを主目的としています。

東キャンパス11号館1階に、昨年10月、新しい子育て支援室が出来上がり、今まで出来なかった砂場での遊びや、外での遊びも出来るようになりました。部屋も広くなり、新しい道具も設置され、これまで以上に楽しく遊べるようになりました。

また、ワークショップでは、昨年に続いて、大学の教員が専門を活かして、子育ち・子育てについての「ミニミニ講座」を開講しています。10月31日㈭には、マダガスカルから帰られたばかりの茶谷 薫講師による「サルの子育て・ヒトの子育て」と題した講演が行われました。

参加者の皆さまには署名と簡単なアンケートにお応えいただくだけで、もちろん、無料です。

期間中、近隣の大勢のご家族に、お子様と一緒にご参加いただきました。

美術学部 デザイン学部

就活セミナー『明日を信じて』（講師：久郷眞氏）が開催されました

2012年10月27日㈯、名古屋芸術大学恒例の学園祭「芸大祭」が催され、学生たちや近隣の人々で賑わう西キャンパスで、久郷眞氏を講師に迎えた就活セミナー『明日を信じて』が開催されました。

富山県出身の久郷氏は、1983年に名古屋芸術大学美術学部彫刻科を卒業。第34回一陽展特待賞やサロン・ド・パリ パレデコングレ賞（1988年）をはじめ、日本美術出版アートワールド賞（1989年）などを受賞した後、1990年には英国王室御用達のターンブル＆アッサーとデザイン契約。同年ソニーともプログラム開発の契約を結びプレイステーション1の開発メンバーになりました。1992年にはスイスを代表するアパレルブランドバリーとデザイン契約を結び活動。2000年にはインド最大の財閥タタ・グループと契約し、現在では、そのタタ・グループ14社の役員としてアジア、アラブを統括しています。

今回、7年ぶりに日本へ帰国された久郷氏は、母校である名古屋芸術大学の後輩たちに、これからの国際社会を生き抜くために必要な“学び”を、自身の経験に基づき熱く語られました。

久郷氏は1992年の英国ケンブリッジ大学大学院への留学を機に、世界の最先端情報を手に入れるには、まずは英語のマスターが必修

だと知ります。価値の高い情報は、基本的に英語で世界に向けて配信されていることが多いからです。また、情報の裏に隠れる真実を見抜く力を養うことの大切さも学んだといいます。久郷氏は英語をはじめ、ロシア語やヒンズー語もマスターされています。そして、「デザインや芸術にしろ、世間の情報に敏感でなくてはいけない。そして、タタ・グループもそうですが、海外の企業の多くは日本の企業と手を組む時代から、優秀な人材を直接ハントする時代となってきています。」と伝え、世界に視野を向け、活躍の場を探る学生にとって貴重なアドバイスを送りました。

芸術分野はもちろん、久郷氏のように世界的に活躍される名古屋芸術大学のOBやOGはたくさんみえます。先輩方が築いた道をはるかに越え、世界へ羽ばたく名古屋芸大生の登場に今後も期待したいと思います。

美術学部　デザイン学部

『Open your eyes～生きる術としてのアート』が開催されました

『Open your eyes～生きる術としてのアート』が2012年11月2日㈮～11月14日㈬、本学西キャンパスのアート＆デザインセンターで開催されました。これはアート＆デザインセンターが主催し、洋画2コースと、展覧会やアートフェアへの企画や出展、現代アート作家のマネジメントなどで知られるisland JAPANの伊藤 悠氏が企画に加わった展示です。この展示に参加したアーテストは、island JAPANに所属する淺井裕介氏、遠藤一郎氏、水川千春氏の3氏です。

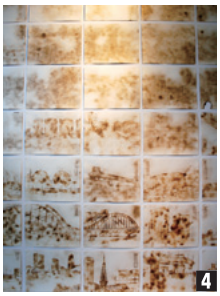
遠藤氏は車体に大きく“未来へ”と描かれた『未来へ号』で車上生活をしながら全国各地を巡り、それぞれの土地で出会った人々に夢を書いてもらう未来美術家。水川氏は、廃墟、空屋、閉店舗、古いアパート、ドヤなど、各地に滞在しながら作品を制作。その生活の中から出てくる、廃材や生ものなどを使って作品を制作します。淺井氏はテープ、ペン、土、埃、葉っぱ、道路用白線素材や小麦粉など身の回りの素材を用いて、キャンバスに限らず角砂糖の包み紙から、アスファルトまで、奔放に絵画を制作する作家です。そんな独特の表現方法と個性的な作風を持った3氏が、今回のテーマ“生きる術のアート”をどのように表現するかに注目が集まりました。

●遠藤一郎氏

『未来へ号』をギャラリー内に設置。各地で書いてもらった未来へのメッセージが書き込まれた連凧やフラグを展示。アート＆デザインセンターで最も大きい「ギャラリー BE」が未来へのメッセージで埋め尽くされた様子は圧巻でした。

●水川千春氏

各地の水で書いたあぶり出し絵を中心に展示。東日本大震災で大きな被害に遭った宮城県石巻市の海水を使って描かれたあぶりだし絵は、太い幹を持った2本の桜と、その間に育つ若木というとても印象深い作品です。何枚もの木炭紙をつなぎあわせ、壁一面に貼られたあぶりだし絵の桜は力強く生命に溢れた印象です。10月3日㈯に西キャンパスで行なわれた出展作家3名による対談『ARTIST TALK』では、この作品の制作過程に触れ、ギャラリーの壁の作品の間にできた1メートルの空きを埋めるのに、急遽名古屋港まで海水を汲みに行き作品を仕上げたというエピソードも教えてくれました。



1 10月2日㈮、3日㈯に行なわれた淺井氏のワークショップ風景
2 11月30日㈯に行なわれた『ARTIST TALK』では、制作時の裏話や作家活動での本音なども聞けた。左から進行役の伊藤氏（island JAPAN）、遠藤一郎氏、水川千春氏、淺井裕介氏
3 石巻市の海水と名古屋港の海水がコラボレーションして完成したあぶりだし絵
4 隅田川の下流から上流までの水で描いたあぶりだし絵「隅田川のあぶりだし」は40枚にも及ぶ大作
5 遠藤氏の作品である『未来へ号』と未来への希望が書き込まれた連凧やフラグ
6 西キャンパス内にはギャラリーに収まりきらなかった大型バスタイプの『未来へ号』も展示

●淺井裕介氏

11月2日㈮、3日㈯に行なわれた公開制作のワークショップ自体が作品です。名古屋芸大生100名と淺井氏が一緒になってギャラリーの壁一面に豊かな色彩を描きました。淺井氏が作品イメージを伝え、学生たちが作品作りをサポートします。作品を描く淺井氏の横では、多くの学生がマーカーをにぎって豊かな色彩を描きました。『ARTIST TARK』で淺井氏は、「みんなが一つになって作った作品」として、参加した学生たちに感謝の言葉を送りました。

グループ校ニュース&トピックス

名古屋芸術大学 保育・福祉専門学校

加藤晃校長 愛知県教育表彰を受ける

永年の子弟の教育に尽力し、学校経営及び学習指導の向上に努めたことなどの功績が顕著であることによる表彰です。

平成24年11月16日㈮愛知県知事より表彰を受けました。

畔柳守男保育科長 愛知県私立学校教員表彰を受ける

多年、教育者として子弟教育に尽力し、愛知県の私立学校教育の充実発展に寄与した功績によるものです。

平成24年11月22日㈭愛知県知事より表彰を受けました。

24年度学校祭

11月3日（文化の日）に開催されました。

Column NUA No.19

芸術教育こそ教養の土台

美術学部教養部会教授　新村洋史

この4月に赴任した新人ですが、はや12月・師走。まだまだ慣れないことばかりです。教職科目の教育制度論、教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが私の担当です。芸術教育の授業を創っていくのは難しくもあり、またやり甲斐あるものだと感慨深く思います。今年度から中学校の新学習指導要領実施となり、それに伴い、本学の教職センターの一員として『教育実習の手引（改訂版）』の作成にも自分の仕事だと思い専心した秋です。

学習指導要領を一読しても、実に抽象的なグルントリッセ（要綱）でしかなく、授業展開法は、授業者の教育力次第です。教育実習の美術科では往々にして、描かせればいい、音楽科では歌を歌いピアノが弾ければよいとなりがちです。しかし、求められている教育（力）とは、「感性」「心情」「情操」という“精神・魂・心”といった人間性・人間形成そのものなのです。表現力にせよ鑑賞・批評力にせよ、構図の作り方や音の出し方、作曲等のシンタックス（構文法）という（a）技術・技能と（b）言語・概念とをもって、（c）人間の感性・心情とクロスさせて理解し、（d）感性・情操を培え、となっているのです。

このような学習指導要領の目標は実に深遠で高邁です。歴史的蓄積も踏まえています。学生たち

近隣住民、卒業生たちや子どもらも見学に訪れて大いに盛り上がりました。

ステージでの演奏、創作劇、模擬店など「Smilles for all」のもと短期間に時間に制約されながら準備委員会を中心にクラスが良くまとまり、学生達のエネルギーが当日発揮されました。

このスローガンに秘められた「すべては笑顔のために」は、将来立派な保育者、介護福祉士を目指す者としてこの気持ちを忘れずに職業に就くことを表しています。

就職状況（12月7日現在）

*公務員2含む

	卒業見込み
保育科	59
保育科第二部	18
計	77

	幼稚園	保育園	児童擁護施設	託児所	一般企業	進学	家事	計
保育科	10	*20	2	0	1	1	0	34
第二部	0	7	1	1	0	0	1	10
計	10	27	3	1	1	1	1	44

学校法人 名古屋自由学院 グループ校特集

滝子幼稚園

滝子幼稚園では人間形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期に、生きる力の基礎を育んでいくことを大切にしています。生きる力の基礎とは、①身体の基礎『自分の思い通りによく動く体にしていくこと』②心の基礎『情動が豊かで心に感じたことを多様に表現し、周りの人と共有できること』③学びの基礎『自発的な五感を刺激する様々な遊びの中で、気付き、考え、工夫し、学び、様々な事象を自分や日常の生活と関連づけながら認識・理解していくこと』の3つです。今回は③学びの基礎を育んでいくことを願った保育実践記録をご紹介します。

保育実践記録 ～大好きなクリーム作り～

年中かんな組では石鹸と水でクリームを作ることが大ブーム！！2学期初旬、年長児が作っているのを見て「私たちもやりたい！！」と真似することから始まりました。ボールに石鹸と水を入れて泡立て、一度水だけを捨て、泡と石鹸をとにかく混ぜるとクリーム状になる。単純な工程ですが、やり始めた頃は上手くいかず年長児に教えてもらったり、みんなで相談したりしながら毎日取り組んでいました。この遊びが2か月程続いた10月の後半、コツを得た子どもたちは自分の力でクリーム状に泡立てることができるようになっていました。

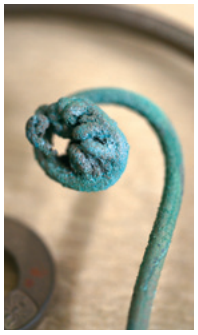
そんな中、作品展の時期を迎え、子どもたちと相談し、大好きな絵本『地下100階建ての家』の世界をテーマにすることを決めました。一人ひとりが空き箱で思い思いの家を作り、友だちとつないで地下100階建ての家を作り、100歳のカメのおばあちゃんの誕生日プレゼントも作りました。そして、お祝いのケーキも紙粘土を使って作ることになりました。ケーキを作っていると一人の子が「クリームで飾りつけしたいね。」と一言。担任も日頃、夢中で遊んでいる『泡のクリーム』を使いたいと考えていたので、その言葉をクラスに響かせました。しかし、泡のクリームは1日おいておくと消えてしまいます。しかも泡なのでホイップクリームのように飾りつけ出来ません。担任は、子どもたちの日常の遊びや学びを活かし、子どもの想いをどうにか取り入れることができないものかと思案していました。ある日、ふと思い付いたことを子どもたちと『実験』と称して試し、『固まるクリーム作り』に挑戦しました。子どもたちが石鹸と水で作った泡クリームにケーキ作りで使った紙粘土の残りを少し入れて混ぜ、飾り付ける直前にボンドを入れてみました。なんとかホイップクリームの質感になり、子どもたちは、うれしそうに自分のケーキに飾り付けを楽しみました。ところが実験ですので、「明日、どうなってるんだろう？」「固まるのかな？」という期待と不安でドキドキワクワクでした。そして次の日、クリームは形をしっかり残したまま固まり、実験は大成功！！　とっても素敵なケーキが出来上がりました。作品展当日は、お母さんやお父さんに「見て！」と誇らしげに自慢したり、作り方を説明したりする子もいました。

作品展後もクリーム作りは続き、ぜひ本物のクリーム作りを体験しようと、実際に本物の生クリーム作りに挑戦しました。いつもの泡のようにすぐにクリーム状にならなくて大苦戦。子ども同士で混ぜる順番や回数を相談しながら混ぜ続けた結果…見事ホイップクリーム完成！！『やったー！』と大喜びでおいもの茶巾絞りにトッピングして美味しく食べました。今でも毎日楽しんでいるクリーム作り、最近は年少児が真似をしています。将来、パティシエになって活躍する子がいるかも知れませんね！

と共に、私もこのような力量を我が物とすることができるよう教育実習の世話をする人間として研鑽する気持ちをあらたにしました。この課題は、「人間とは何か」（人間論）を芸術教育分野から探求し、芸術を通して人間形成を図るということです。人間の魂を引き付け捉えて離さない芸術、人間の心や精神を支え価値あるものに向かって奮い立たせる力をもった芸術。その理解や創造力は「人間として善く生きる」というパイデイア（教養・教育）そのものです。プラトンも「芸術は教育の基礎たるべし」といっています。

それは、芸術教育に限られず、今日ではあらゆる学びがその方向を目指しています。OECDは、持続可能な成長と、個人と社会とが調和できる世界を創造するために、新たな能力観や教養観を提起してきました。その傘下のDeSeCoはキー・コンピテンシー（基本的能力）として、三つカテゴリーを掲げます。その①は「社会的に異質な集団で交流する能力」です。それはコミュニケーション能力であり、共感・協同・連帯する力です。その②は「自律的に活動する能力」であり、大きな展望・文脈の中で人生設計やプロジェクトを設計・実行できる力です。その③は「道具を相互作用的に活用する能力」で、言語・シンボル・知識・情報・技術を自己と社会との為に活用する力です。PISA（ピザ）は、これをリテラシーとよび、読解リテラシーでは自らの目標を達成し自らの知識と可能性を発達させ社会参加するために熟考する能力」としています。文部科学省等では、この能力観を新学習指導要領の軸に据え、教育の基本理念として「生きる力」という言葉に置き換えています。“超文明社会”・“システム化社会”・“非人間化社会”の中で「善き人間・人生・社会」とは何か、感性豊かな人間社会を焦点に据えた教養と教育の探求が求められる時代です。

マスター to アーティスト



「They repeat one's act forever」
2006年
大英博物館収蔵

【第19回】

＜小さくて 大きなもの＞

瀬田哲司（せた　てつじ）

デザイン学部
クラフトブロック
メタル&ジュエリーデザインコース
准教授

1960年　名古屋市生まれ
1988年　東京藝術大学大学院美術研究科鋳金専攻修了
1993年　名古屋芸術大学美術学部デザイン科専任助手
1996年～　名古屋芸術大学美術学部デザイン科専任講師

FIDEM（Fédération Internationale de la Médaille d'Art）
日本副代表
BAMS（British Art Medal Society）
英国美術メダル協会会員
JAMA（Japan Art Medal Association）
日本藝術メダル協会理事（国際担当）

2010年　第31回創作メダル彫刻展（日本藝術メダル協会）秀作賞
2011年　第6回佐野ルネッサンス鋳金展 奨励賞（佐野市）
2011年　Van der Veen / Teylers Prize ノミネート
2012年　第32回FIDEM（Fédération Internationale de la Médaille d'Art）国際美術メダル連盟　Grand Prix

その昔、英国の作家、ラドヤード・キップリングは記した。“Oh, East is East, and West is West, And never the twain shall meet, Till earth and sky stand presently At God's great judgment seat.”「東は東、西は西、両者がまみえることは決してない。神の偉大な審判の席に天地が並んで立つまでは」
（“The Ballad of East and West”『英語の名句・名言』より 別宮貞徳：訳）

現代に生きる私たちは、作家が考えるほど世界が大きいものではないことを知ってしまった。テレビの衛星中継ですら今や昔の話、ＩＴ、ネット、スマホ……、現代人は、地球の裏側で起きたことを瞬時に知る世界に生きている。

技術や文化は相互に行き来し、洋、邦の区別はその意味を小さくし、地球上の人々は同じ物を手にすることができ、遠くの人を身近に感じて生活できるようになった。世界はたしかに小さくなった。西と東は混ざり合った、と思っていた。

「よかったら、触ってみてください」

“生き写し”という言葉では足りないほどに生々しい小枝が、丁寧に整形されたフレームに、今度は文字通り、つなぎ目なくつながる。自然と人工物がバランスよく手の中に収まる。ひやりとした金属の冷たさと期待どおりの重量が掌に心地いい。

「アートとしてのメダル」、そのことにあまりピンと来ていなかった。メダルといえばオリンピックのメダルのように褒章としての意味が強く、アートとして強く認識していなかった。たしかに欧州の博物館ではどこでもメダルの展示があり、レリーフ彫刻などと同じように芸術品として取り扱われている。見せられたコンテンポラリーアートメダルは、これがメダル！ と思わ

「November 2009 acorn caps KOUZOUJI NEWTOWN」
2010年大英博物館収蔵

「Mon jardin La feuille du camellia Janvier　2010」
2010年ヌーシャテル美術歴史博物館（スイス）収蔵

「Gardenia jasminoides クチナシ 8 JULY 2010」
"2011-2012 NEW IDEAS in MEDALLIC SCULPTURES" 参加作品

「May - "How much" How much longer we had waiting for THE END」
2011年"THE END" 参加作品

「REVERSIBLE DESTINY : WE HAVE DECIDED NOT TO DIE
November 23,2011 ー Cloudy」
2011年"Signs of the time" 参加作品

「Japan standard time
21 : 40 : 21,May 30, 2011
I received e-mail from Teylers Museum」
Van der Veen / Teylers Prize プレゼンテーション作品、
FIDEM XXXII GLASGOW 出品作品

「The medal workshop in NUA October 8 -December 3. 2011」
FIDEM XXXII GLASGOW 出品作品

「Cayrata japonica It had spread on the wall　September 29-2011」
FIDEM XXXII GLASGOW 出品作品

「Gardenia jasminoides　July 19, 2011　Typhoon No.6　NUA」
FIDEM XXXII GLASGOW 出品作品

「Greeting medals」
2012年 University of Bergen（ノルウェー）収蔵

「The noon of April 29thWilliam and Kate road in a carriage
procession from Westminster Abbey to Buckingham Palace」
2012年 Museum Beelden aan Zee（オランダ）収蔵

「Icon medal for "THE MEDAL COMPLEX 2012"」

2006年
- BAMS student Medal project（英国美術メダル協会学生メダルプロジェクト）に参加。教員枠で出品したメダル「They repeat one' s act forever」がBAMSよりエディション発行される。同作品、大英博物館収蔵。
BAMS student Medal projectはその後2007年と2009年に参加。

2010年
- FIDEM 第31回展 TAMPEREに参加。
"NEW IDEAS in MEDALLIC SCULPTURES" のオーガナイザーであるMrs.Mashikoと出会い、
"NEW IDEAS in MEDALLIC SCULPTURES" に参加することになる。
大英博物館、ヌーシャテル美術歴史博物館（スイス）作品収蔵。

2011年
- オンラインメダルプロジェクト"Signs of the time", "THE END" に参加。
- Van der Veen / Teylers Prizeにノミネートされる。同賞は世界で5名のコンテンポラリーメダルアーチストがノミネートされた。

2012年
- "THE MEDAL COMPLEX" 名古屋芸術大学Art & Designセンターで開催。
FIDEM 第31回展 GLASGOWに参加。グランプリ受賞。
University of Bergen(ノルウェー)、Museum Beelden aan Zee(オランダ)作品収蔵

「一見、不可能に見えることでも真摯に仕事をしていれば、取り組んでいれば、必ず、理解者とか、協力者が次々に現れてきて、あっという間に実現するんだなと。自分の感覚に忠実にいることが実を結ぶんだなと」

せるような、それぞれが多様さと独自性を持っていた。紛う事なき"アート"の世界。

「ＦＩＤＥＭ(国際美術メダル協会)の場合、展覧会としては２０ｃｍ以内という規定があるんですけど、メダルそのものの規定は決めていないですね。実際、巨大なものを出品した人もいます。メダルというといろんなイメージがあって、例えば、片手で持てるというのもひとつのイメージ。丸かったり、素材が金属だったりとか、いろんなイメージがあります。それらの既成概念としてのイメージをすべて満たすか、あえて一部だけ使って、例えば大きさを外すのもひとつだし、形を円盤じゃなく立体的なものにする、といった表現があります。いろんな人が持っている既成概念をうまく利用して表現できる面白さがあります。全部外しちゃうとメダルじゃなくなる、全部クリアしちゃうと枠から外れきれない……」

美しい色合いは、煮込み着色という日本の伝統的な手法によって作られたものだそう。「海外には無い技法で、アピール力は強いです。欧米で作品を発表するとなるとサイズが大きくなきゃダメと若いときから言われてきたんだけど、ＦＩＤＥＭやＢＡＭＳ(英国美術メダル協会)の会議に行くと、みんな"ちっちゃい"ものが好き！ こういう人達もいるじゃないかと発見しました。こういうサイズの造形っていうのは日本の工芸の中にいっぱいあります。根付だとか印籠とかもそうですね」 日本には鋳金の文化がある。欧州にはメダルの文化がある。その二つは今までクロスしていなかった。ＦＩＤＥＭでのグランプリ受賞は、その初めての接点になるかもしれない。

「コンテンポラリーなメダルの文化を日本にももっと広めたいですね。日本の鋳金の技術と文化を知ってもらいたいし、ヨーロッパのことを日本にも広めたい」 西と東は、思うほど混ざり合っていない。アートには、やれることがまだまだたくさんある。そう強く感じさせられた。

Information
インフォメーション

『アワード』

Award NUA

※順不同、報告のあったものの中から、誌面の関係で一部だけを掲載しています。

■第６回横浜国際音楽コンクール
【ピアノ協奏曲部門第１位】
大学院
音楽研究科２年
山本多恵佳さん

■第６回横浜国際音楽コンクール
【ピアノ部門一般の部第２位 F.Liszt 賞】
音楽学部
ピアノコース３年
碇 大知さん

■第６回横浜国際音楽コンクール
【ピアノ部門一般の部第２位 D.Shostakovich賞】
大学院
音楽研究科修了生
佐藤なつみさん

■第１４回“万里の長城杯”国際音楽コンクール
【ピアノ部門第２位】
音楽学部
ピアノコース４年
秀平雄二さん

■第１４回日本演奏家コンクール
【大学の部奨励賞】
音楽学部
ピアノコース４年
今村洋平さん

■第１３回大阪国際音楽コンクール
【ピアノ連弾部門アブニール賞】
音楽学部
卒業生
尾関 愛さん
星野博子さん

■第１８回みえ音楽コンクール
【フルート部門大学生以上一般の部第１位・三重県知事賞】
音楽学部
弦管打コース４年
勝田晴香さん

■第４回岐阜国際音楽コンクール
【声楽部門専門大学・一般の部第１位・岐阜市長賞】
音楽学部声楽コース
卒業生
稲場 薫さん

■第３回ポスターグランプリ
（愛知県・岐阜県・三重県印刷工業組合と愛知県印刷協同組合主催）
【優秀賞（大学生・専門学校生の部）】
デザイン学部
VDコース３年
伊藤友美さん

【愛知県知事賞】
デザイン学部
VDコース３年
太田あゆみさん

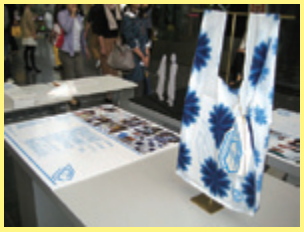
【岐阜県知事賞】
デザイン学部
VDコース３年
金森菜奈香さん

【中日新聞社賞】
デザイン学部
VDコース３年
高田若葉さん

【富士ゼロックス（株）賞】
デザイン学部
VDコース４年
山岸結美さん

■第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ
【大賞（絵本部門）】
美術学部洋画コース2001年卒業生
長尾琢磨さん

■あいちトリエンナーレ2013 公式グッズ・デザインコンペティション
【最優秀作品】
（デザイン学部テキスタイルデザインコース扇千花研究室）
参加学生
（デザイン学部テキスタイルデザインコース）
４年　永川承美さん、小島千明さん、三谷恵利香さん
３年　小島由莉さん、土井綾乃さん、古川理恵さん
２年　鈴木花奈さん、寺島佑紀さん、田畑知著さん



■『VOCA展2013』現代美術の展望 ―新しい平面の作家たち
【VOCA奨励賞】
2004年大学院同時代表現専攻版画修了
柴田麻衣さん

2012年度 音楽学部演奏会スケジュール（2013年2月～3月）

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先／（0568）24-5141

2月

研究生修了演奏会
日時/2月7日(木) 18:00開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

Kaleidoscope2013
日時/2月9日(土) 14:30開演予定
会場/愛知県芸術劇場小ホール
入場料/500円（全席自由）

第11回　歌曲の夕べ
日時/2月9日(土) 18:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

第17回　春のコンサート ピアノのしらべ
日時/2月14日(木) 17:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」
演出/澤脇　達晴
日時/2月21日(木) 18:30開演予定
会場/名古屋市芸術創造センター
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

大学院音楽研究科特別演奏会
日時/2月26日(火) 18:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン 第14回定期演奏会
指揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
小野川　昭博
日時/2月27日(水) 18:15開演予定
会場/長久手市文化の家 森のホール
入場料/1,000円（全席自由）

第40回　卒業演奏会
日時/2月28日(木)/3月1日(金)
18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

3月

第15回大学院音楽研究科修了演奏会
日時/3月7日(木)/3月8日(金)
18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料（全席自由　整理券あり）

ミュージカル公演公開リハーサル
日時/3月9日(土) 18:00開始予定
会場/名古屋市芸術創造センター
入場料/無料（全席自由）

ミュージカル公演
日時/3月10日(日) 14:00開演予定
会場/名古屋市芸術創造センター
入場料/1,000円（全席自由）

表紙の写真

伊藤　孝照先生
（クリエ幼稚園園長／人間発達学部講師）
クリエ幼稚園きく組の皆さんと

毎日、歓声を上げ元気に遊ぶ子供たち。
夢中で絵をかき、工作を作る子供たち。
天使のような顔で歌う子供たち。
そういう子供たちと、
毎月のお誕生日会などで、
共に過ごせる幸せを
感じています。
（2012年12/5撮影）

発　行：名古屋芸術大学
編　集：全学広報誌編集委員会
制　作：（株）クイックス
発行日：2013年1月25日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0359
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan University Accreditation Association
since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED
2011. 4～2018. 3

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。